

新基地建設反対名護共同センター ニュース

島々を戦場にするな！沖縄を平和発信の場にしよう！

平和集会に2100人

5・21平和集会が、沖縄本島中部の北谷球陽前広場で開催されました。シンガー達による平和コンサートが午前十一時から始まり、歌に合わせてダンスや踊る人達もいてにぎやかに始まりました。

午後一時からは、若者二人による司会で、自衛隊の駐屯地、弾薬庫の建設、ミサイル配備等の軍事化が可視化している与那国島・宮古島・奄美大島・馬毛島・自衛隊の弾薬庫等建設に反対する沖縄市民の会・ミサイル配備から命を守るうるま市民の会・辺野古への遺骨交じりの土砂搬出に反対する島尻島ぐるみ会議・沖縄平和運動センター・沖縄統一連・戦争体験者・若者代表・県議会代表等がそれぞれの取り組みや情勢について熱く語りました。

自民・公明の賛成で防衛財源法案が衆議員を通過し、戦への危機感が報告者の声の大きさにも表れ、今、沖縄を平和発信の場へと変える歴史的タイミングの時に強く感じました。



高江の今 - 世界自然遺産やんばるの森 -

やんばるは霧が出てくる季節になりました。先日の夜、帰宅途中に羽蟻の大群が車のライトに照らされ舞っているのに遭遇。「梅雨だなあ、洗濯物が乾かなくて困るなあ」などと、いかに家事をこなしている主婦のごとくつぶやくのでした。



さて高江の座り込みは二〇〇七年から続いていて、ヘリパッドが完成したとする二〇一八年後も監視活動に重点を置きしごとく行われています。私を含め一人また一人とテント当番も少なくなり、テント当番は高江の住人の参加者は一人だけになっています。その分大宜味村や名護市から応援がきて月曜から金曜日の十時から一六時まで誰かが座るようにしています。昨年十二月の米兵が県道に出てきて行軍する様子がニュースになったのもテントでの活動の成果です。世界自然遺産に登録されても訓練は続けられ、空は各種ヘリコプターやオスプレイが飛び交い、地上ではジャングル戦闘の訓練で森を踏み荒らしています。時折パンパンと銃声が響いてくるこんな森が世界自然遺産にふさわしいはずがありません。我々の活動は「ヘリパッドいらない」だけでなく、やんばるの森の実態を広める事に力を込めたいと思っています。

現在は座り込みテントをなくし、ワンボックスカーに椅子、テーブルなどを詰め

込み現場でちょっとしたキャンプ気分での座り込みです。ご要望があれば高江周辺の案内も行いたいと思っています。団体でお越しの際はご一報ください。東村では、四月二十三日に村長選挙が行われ現職の当山全伸氏が二期目を守り切ることができました。

村長就任前から辺野古や高江の現場に顔を出し、「北部訓練場におけるN4ヘリパッドの使用禁止、オスプレイを含むヘリコプターによる集落上空や夜間早朝、及び県民の水瓶、ダム上空での飛行禁止について継続的に申し入れる」と約束しました。相手候補は自民党の大物政治家の後押しもありましたが、當山村長の誠実さが勝っていました。

なお恒例の高江報告会は一六回を数え、7月2日に場所を移して行います。(東村村議・伊佐真次)

追悼・早坂義郎さん

三月七日付けの赤旗の訃報欄をみて「あつ！嘘！」と思わず声を上げました。丁度早坂さんのエッセイを読んでいた直後でした。「いや、同姓同名？」と確かめても結局、早坂義郎さんご本人なんというところでしよう。

辺野古の海上デモのご案内いただき親切にお世話して下さいました早坂さん、業者運動でも頑張りぬいた早坂さん、ご冥福をお祈りします。(愛知県)

6・4ミサイル配備を断念せよ！

うるま市民集会にご参加を！

とき・6月4日(日)十三時半から
ところ・勝連分屯地ゲート前

新基地建設強行の現場から 新たな闘いを！ ヘリ基地反対協が総会



5月25日ヘリ基地反対協は定例の総会を開催しました。ヘリ基地反対協は、1997年10月17日結成。日本政府の軍事基地建設の押し付けに対して名護市民投票を実現し、新基地建設反対の大きな役割を果たしてきました。その存在意義は今も大きい。新基地建設に反対する辺野古漁港浜での座り込みは5月25日で6976日になり、来る6月18日には7000日になります。その前に1997年5月7日から命を守る会が8年座り込んで基地建設反対の闘いの炎を燃やし続けてきました。併せてまる26年。日本の闘いでも傑出する闘いです。沖縄県民は、米軍占領下での不屈の闘い、沖縄返還後も日本政府の大企業本位の政策に翻弄され続けてきました。日本国憲法番外地ともいわれてきました。今、その憲法も空文化されようとしています。まだまだ続く怒りの島。琉球・沖縄。新たな闘いの第一歩を踏み出します。総会は共同代表に中村善幸氏・東恩納琢磨氏、事務局長に仲本興真氏を選出しました。(ヘリ基地反対協事務局長 仲本興真)